

令和4年度 防衛大学校入校式
久保 防衛大学校長訓示

本日の入校式にあたり、防衛大学校を代表して一言ご挨拶させていただきます。

本日、ここに令和4年度の入校式を挙行できることを心より喜びたいと思います。そして何よりも、新入生の皆さんに、入校おめでとうございます、心より歓迎いたしますと申し上げたいと思います。

本年度は、本科第70期472名、理工学研究科前期課程53名、同後期課程10名、および総合安全保障研究科前期課程14名、同後期課程4名の学生諸君を迎えることができました。

また、本年もアジア諸国から数多くの優秀な留学生諸君をお迎えします。本年度、本科に入校予定となっているのは、10か国からなる25名、および理工学研究科前期課程に5名、同後期課程に4名、総合安全保障研究科前期課程2名の諸君であります。寝食を共にする本校での生活は、留学生諸君にとって必ずしも容易なものではないと想像しますが、これまでほとんどの留学生は立派に卒業されてきました。異なった文化に接触することで、日本人学生も大いに触発されてきました。そして今や、母国で活躍する卒業生の皆さんは、防衛大学校が、そしてわが国が誇るべき貴重な資産となっています。

留学生諸君には、日本人学生と切磋琢磨しつつ、卒業まで頑張っていたいただきたいと思います。日本人学生の方も、留学というのがいかに大変なことであるかについて想像力を働かせ、様々な形で支援し交流することをお願いしたいと思います。

本年度の入校式、例年よりもかなり遅れての開催となってしまいました。また、本来であれば皆さんのご家族やご来賓もお招きして挙行すべきところ、新型コロナウイルスの感染防止対策上、まことに残念ながら招待の方なしで実施せざるを得ませんでした。現在オンラインでご覧いただいている方も少なからずいらっしゃるかと拝察していますが、ご理解賜れば幸いです。

さて、自衛官としてわが国の安全保障のために人生を捧げるという決意をもって本校に入校された皆さんには、心より敬意を表したいと思います。ぜひこの崇高にして貴重な任務を全うしてください。しかし、気持ちだけではやっても任務は遂行できません。安全保障のプロ、部隊統率のプロ、専門家としてこれから多くのことを学んでいく必要があります。中曽根康弘元総理大臣は昭和60年の本校卒業式訓示において、防大生に対して「永遠の求道者の心掛け」をもって日夜不斷の努力と精進を重ね、精強にして、真に国民から信頼される自衛隊の中核としての幹部自衛官として立派に成長するように期待を表明されました。われわれ本校の教職員全員も、皆さんが立派なプロフェッショナルになれるように、全力を尽くして支援したいと考えています。皆さんも「永遠の求道者」の気概をもって学んでいってください。

これからの4年間、ぜひこれからお話するいくつかのことに留意して頑張っていたいただきたいと思います。

1つは広く学ぶことであります。

科学技術について正確な理解をもつことが重要であります。日進月歩の世界であります。安全保障の分野でも、宇宙、サイバー、電磁波など、新しい分野がますます必要とされています。精神論や空想では安全は確保できません。しかし、同時に歴史や社会科学も勉強して欲しいと思います。歴史といった場合、戦史も重要ですが、さらにより広く人類の歩みを振り返ることも必要かと思います。そしてその際には、民主主義の歴史と民主主義の意義についても学んでほしいと思います。皆さんにはぜひ民主主義社会における自衛官の役割について適切な認識をもっていただきたいと思います。

2つ目は本を読もう、ということであります。

卒業後は忙しい生活が待っています。大学にいたときにのみ、読書に沈殿することができます。自分が気に入った本を色々と工夫して紹介し合うビブリオ競技会というのがありますが、そういった意味でそれは非常に重要な行事です。ぜひ真剣に取り組んでください。

3つ目は人間を磨こう、ということであります

自衛隊に入りますと、少しずつ階級が上がり、部下ができ、その数も増え、命令に従う人の数は増えます。ただ、私としては皆さんに、そのような権限とかあるいは学生舎生活において学年が上になったとかいうことだけに寄りかかるのではなく、そういったものがなくても部下や後輩が自ずとついてきてくれるよ

うな指導者になることを目指して欲しいと思っています。そのためには勉強だけでなく、部下や下級生を含めて他人の気持ちを理解する力、あるいは怒りの気持ちなど自分の感情を抑える能力も必要であります。人の気持ちを理解する態度は、たとえば災害救助に入ったとき、被災者の感情を理解する際にも必要であります。学生舎生活、校友会活動、あるいは訓練等を通じて、ぜひ広い意味での人間力を磨いていってください。

4つ目としては、広く学ぶことを越え、さらに広い視野を持つて欲しいと思っています。皆さんは学外でのアルバイトや就職のためのインターンをすることはできません。しかし学校としては、海外留学、部隊見学、校外研修、国際会議や国際競技会、国内他大学との交流など、さまざまな機会を用意して、皆さんが、過度に防大・自衛隊の世界に閉じこもることがないように努力しています。皆さんの方も、積極的にこのようなチャンスに応募して、外の世界を知るように心がけていただきたいと思います。

研究科の学生の皆さんは、当然専門的で深い研究に没頭することになるかと思いますが、それでも広い視野を持つように努力し続けていただければ幸いです。

皆さんの先輩たちは、ほとんどが困難を乗り越えて防大を見事卒業していききました。皆さんにもぜひ頑張って欲しいと思っています。防大生活においては「厳しい」と形容されることが多いかと思いますが、実はこれはやや一面的であります。すなわち、実は大変な楽しさと充実感・達成感がそこには存在しています。

実際、皆さんの先輩の多くが防大時代を振り返って、防大生活は実に楽しかったと言ってくれます。その理由のかなりの部分が、一生の友人を得ることができたということにあるようです。自分の人生を、国民を守るために捧げる決心をした若者同士の友情であります。陸海空と今後職場は分かれていくわけですが、それでも付き合いは続き、さらに現在は統合運用の時代ですので、実は一緒に仕事をする場面も増えています。今この瞬間、皆さんにはこのような防大の良さはまだ十分見えてきていないかもしれませんが、いずれ実感することになると思います。ぜひ、頑張ってください。

防大70期生の皆さんがこの4年間で、防大でしか得られない充実し、かつ楽しい学生生活を送れることを願って、入校式での学校長訓示とさせていただきます。

令和4年4月28日
防衛大学校長 久保文明